

## 第3回ピアカウンセリング研修会とピア相談会

ピアカウンセリングのピア(Peer)とは『仲間、同輩、対等者』という意味です。ピアカウンセリングはピアである仲間同士の中で、相手の話を聞くことによって、より良い発達と問題解決を支援しようという考え方です。山梨県難病相談・支援センターでは、患者および家族がピアカウンセラーとなって、同じ病気を持つ難病患者・家族を支援する活動を進めております。昨年の9月には、進行性筋神経疾患の難病患者でピアカウンセラーとして活躍されている自立生活センター・日野、事務局長の秋山浩子さんを講師に招き、第3回ピアカウンセリング研修会を開催しました。当日は、15名の患者家族が参加されました。疾患別ピア相談会は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、炎症性腸疾患、ALSの患者会の方々がピア相談員となり、それぞれに開催しました。



### 第3回 ピアカウンセリング 研修会

秋山浩子さんと参加者



平成18年9月9日、甲府市障害者センターで開催し、講師の秋山さんより「ピア・カウンセリングと相談の受け方」の講義を受けました。ピアカウンセリングの3つの目標（自己信頼の回復・人間関係の再構築・社会の変革）を踏まえ、相談者の持つ力を尊重しながら、本来持っている力を引き出すことを通して、自己選択・自己決定できるように支援していくピアカウンセラーの役割や実際に相談を受ける時の心構え、相談過程等、より実践的な学習を行いました。

### パーキンソン病ピア相談会 山梨パーキンソン病友の会

### ピア相談を 実施して

平成18年12月9日（土）に初めてのグループピア相談会を開催しました。生憎の雨でしたが、4組5名の参加がありました。相談対象者の病状は確定診断間もない軽症の方から進行期で吸引や胃瘻による栄養管理の方と幅がありました。それぞれの自己紹介に続いて、困っていること、悩んでいること、知りたいことを語っていただき、ピア相談員が対応しました。

皆さんに等しい時間を配分することと、思いを深く



## 患者・家族交流会

平成18年11月12日（日）、患者・家族団体協議会主催の患者・家族交流会「秋を楽しみましょう」が新築されたばかりの県立あけぼの医療福祉センター2階交流広場で、開催されました。26名の患者・家族の方が参加され、6名のボランティアの協力がありました。1階ロビーに集合後、さっそく、2グループに別れ、施設内を職員の方に案内していただきました。当日は、晴天！ 晩秋の風が心地よく吹き抜ける屋上から、すがすがしい富士山と木々の紅葉を眺め、のんびりとしたひと時を過ごしました。昼食後、福祉指導幹 小田切正貴氏の「あけぼのの障害福祉よもやま話」を伺い、交流会では、自己紹介や近況報告などを行いました。

休日にも関わらず、ご協力いただきました施設職員の方々に、心より感謝申し上げます。

### 神経系難病医療・生活相談会の模様



## 医療相談会

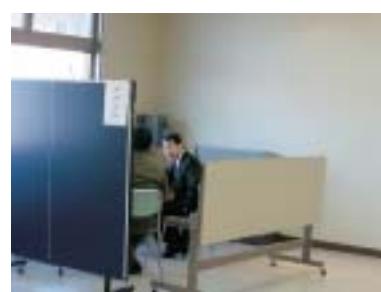
平成18年11月19日（日）ひゅあ富士に於いて「神経系難病 医療・生活個別相談会」を開催しました。この会は富士東部地域の方が参加しやすいように、都留市で行いました。折しも会場の窓辺は、美しい紅葉でした。

講師に、山梨医大の新藤先生、甲州リハビリテーション病院作業療法士の関谷先生、富士東部保健所の小川保健師を招き、疾病、リハビリ、生活・制度等の相談に応じました。7組12人の患者・家族の参加がありました。



平成19年2月4日（日）甲府市障害者センターに於いて、「IBD（炎症性腸疾患）の医療相談会」を開催しました。講師に、石和共立病院の高木先生、社会保険中央総合病院の斎藤先生を招き、疾病相談、栄養相談を行うと共に、患者会によるピア相談も平行して行いました。相談は、疾病3名、栄養3名、ピア1名でした。参加者から、「時間を気にせず、じっくりと専門の講師に相談できた」、「主治医以外の医師と話すことができた」などの声が寄せられました。

### 炎症性腸疾患医療相談会の模様



## 災害時難病患者支援研修会

平成18年10月28日（土）午後1時から4時まで、甲府市障害者センター2階会議室に於いて開催しました。当日は、国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター総括診療部長で、静岡県の災害時における難病患者支援マニュアル作成員（座長）の溝口功一先生を講師にお迎えし、「災害時の在宅難病患者の支援」について講演していただきました。講演後、車椅子で生活されている難病の患者・家族の方より、近隣者との支援体制作りなど、実践している対策についての発言がありました。参加者は、患者・家族36名、医療および教育関係者18名の54名でした。参加者からは、講演を通じて、平素からの小規模ネットワーク構築の大切さや自分の身は自分で守る備え（自己マニュアルの作成等）を再認識すると共に、迅速に適切な対応に繋げるための緊急医療手帳・緊急連絡カード、



薬の備蓄など、個人および行政のすべきことを学ぶことができた等の感想がありました。

## IBD（炎症性腸疾患）講演会



平成19年2月4日（日）午後1時から4時まで、個別相談会に引き続いだ開催しました。講師には、患者会（あしおと）の方々から要望がありました社会保険中央総合病院栄養指導専門員の斎藤恵子先生をお招きしました。講演会は、参加された16名の方々と対話形式で進められ、IBDの食事の基本から実践のポイントを詳細に説明していただきました。終了後のアンケートでは、「幅広く、具体的な情報や対処方法がわかった」「注意していても忘れていたことがあり、もう一度見直しながら病気と付き合っていきたい」「緩解期の今、何をすべきか気づくことが多かった」「専門的なお話を伺える良い機会でしたので、もう少し多くの患者・家族が参加されると良かった」などの声が寄せられました。